

☆学習指導

- ・学校での学習に関しては、児童・保護者ともに高評価を得ています。特に、児童は友だちの話をしつかりと聞き、困ったときや分からないときにペアやグループの友だちに尋ねながら意欲的に学習を進めていると回答しています。保護者についても、学び合う授業を通して学力が高まっていると感じている方が90%をしめました。家庭学習に関しても、93%の児童がしっかりとできていると答えています。今後も、主体的に学習ができるように取り組んでいきます。
- ・読書については、80%の児童が意欲的に取り組んでいると答え、学校でも少しの時間を利用して読書をする児童が見られます。しかし、保護者の方は家庭であまり読書をしていないと感じられているようです。学校では、毎学期「読書週間」を設け、朝の読書や読み聞かせ等、読書量を増やす取り組み等を行っています。この期間には「家族読書」にも取り組んでいただき、一定の成果が出ていますが、読書の習慣が続かないというご意見もいただいています。「生活チェックシート」を活用したり、読書を家庭学習の一つとして組み込んだり、ご家庭と連携して読書好きな児童を育てていきたいと考えています。

☆生活指導・心の教育

- ・「学校に楽しく通えている」と95%以上の保護者や児童が答えています。そして、ほぼ全児童が「いじめはいけない」、「友だちの嫌がることをしないで仲良くできている」と答えています。これは、いじめアンケートやQU調査、教育相談の実施、日記や子どもの様子の観察等から子どもの声を聞き、早期発見に努めている成果だと考えます。相談できる人が身近にたくさんいることも本校の特徴です。このことが悩みの早期解決や気持ちの安定につながっているとも思います。しかし、まだ楽しく学校に来ることができていない少数の児童がいることや、「いじめや差別をなくすための指導」のさらなる徹底を望む保護者の方がいることが伺われます。児童も保護者の方々も安心するためには、常にアンテナを高くし、保護者や地域の方々との連携を密にしながら、児童の様々な情報を交換し合うことが必要だと考えます。保護者の方々も何か気になることがありましたら、すぐに学校までお知らせください。また、「将来の夢や目標をもっている」や「自分にはよいところがある」と答えた児童が80%台にとどまっていることから、個性を尊重し、いろいろな場面で認められる機会を増やしていくように努めていきます。
- ・「あいさつ」については、ほぼ90%の児童が「している」と答えているのに対し、保護者の方からは「できているとは言えない」というご意見もいただいています。今年度は、「あいさつチェックシート」の活用や、「あいさつ標語」作りをご家庭と協力して行い、子どもたちのあいさつへの意識を高めてきました。また、今年度も児童会が中心となってあいさつ運動を行っています。子どもたちの中では「している」と感じているのですが、決まった人だけにしていたり、進んでできなかつたり、声が小さかつたりすることもあるようです。3学期も、「あいさつチェックシート」の活用、あいさつ運動の継続を行うとともに、道徳の時間にあいさつの大切さを指導し、継続的に教師から働きかけていくようにしていきます。

☆健康・安全指導

- ・縄跳び集会や交通安全教室、地域防災訓練等の行事や、歯磨き週間や朝の駆け足などの取り組みの成果として、保護者の方は健康や安全についての指導が行われていると高評価をされています。児童アンケートでも安全に生活できていると回答している児童がほとんどです。
- ・今年度は「進んで外で遊んでいる」と答えた児童が80%となり、昨年度より10%程増えています。「三重北っ子遊び週間」や「三重北チャレンジカード」(遊具を使った遊び)の利用を続けてきたことや、教師も積極的に子どもと遊んだり声掛けをしたりすることが増えてきたことによる成果ではないかと考えます。